

市町村名	大宜味村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	大宜味村観光情報発信整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	産業振興課・企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24~30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり及びPRイベントを開催し、交流人口の増加を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(b) 予算現額	13,811	1,650	1,650	7,706	9,550
		(c) 増減額(b-a)	11,781	1,650	1,650	7,310	9,550
		(d) 繰越額	▲ 2,030	0	0	▲ 396	0
		A. 計(b+d)	-	-	-	-	-
	B. 執行済額		11,781	1,650	1,650	7,310	8,526
	うち交付金充当額		9,424	1,320	1,320	5,848	6,820
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	89.3%
	予算の状況の説明		・産業まつりについては当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・PRイベントについては、当初見込みよりも使用料等が低廉な費用に抑えることが出来たこともあり、不用額1,024千円については事業実績に伴うものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	(3イベント)	(3イベント)	(3イベント)	(開催)	
		実績	3イベント	3イベント	3イベント	実施	
	PRイベント開催支援	目標	()	()	(1イベント)	(開催支援)	
実績				1イベント	実施		
達成状況説明	・産業まつり: 誘客増のための、①ステージイベント→大宜味村特産品セリ体験を実施(シークワサー苗・野菜)。②会場活用イベント→子供たちを対象とした木工体験や、重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施。③会場イベント→村の特産品であるシークワサーの「接木講習会」を実施した。④会場活用イベント→村の特産品であるシークワサーの種を使って、種飛ばし大会を実施した。 ・PRイベント: ①平成29年 8月18日~20日(3日間) 逗子沖縄まつりイベント 3,000人。②平成29年 8月26日~28日(3日間) 前橋「琉球の嵐」イベント 4,000人。③平成29年10月14日~16日(3日間) 石巻大漁まつりイベント 6,000人。④平成30年 2月16日~18日(3日間) 東京スカイツリーシークワサーまつり 2,000人。⑤平成30年 2月19日~21日(3日間) 近畿・関東PR活動(愛知県・東京都) 6件。⑥平成30年 3月1日~4日(4日間) 関東PR活動(東京都) 26件						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(23年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(H30年度)
	産業まつり参加者数	目標	(2,500人)	(5,000人)	(5,000人)	(5,000人)	()
		実績		3,500人	5,500人	4,400人	
	PRイベント開催数	目標	()	()	(5,000人)	(4都市)	()
		実績			5,866人	7都市	
	【H30成果目標】PRイベント来場者数		目標	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	・産業まつり: 前年より引き続き友好交流「市」「町」である、宮城県石巻市と福島県西会津町を招いての特産品販売を行い、ステージイベントを目当てに、村外来客者も多く来場した。また、前年に引き続き子供たちを対象とした重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施し、ファミリー層の誘客を推進したが、目標とする産業まつり参加者数を達成することが出来なかった。 ・PRイベント: 平成29年8月~平成30年3月にかけて、関東及び近畿圏域でほぼ成果目標通りにPRイベントを実施した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・産業まつり:①駐車場に限りがあり、うまくまつり参加者を取り込めていない課題がある。また、まつり開催に伴う広報活動や周知の強化、大宜味村らしいイベントを定着化させる事により、村外来場者の固定化を促すことが重要。</p> <p>②展示会場(コーナー)におけるシークワサーの紹介を強化し、村産花きについても、生け花による展示を行い使用方法について有効的に発信できたが、その他の野菜等の展示についてもより積極的に行う必要がある。</p> <p>・PRイベント:①大宜味村の特産品等を沖縄県内だけでなく、県外の各地域でイベントを取り組むことにより、多くの来場者へPRする機会を得られた。</p> <p>②PRイベント活動が好評を得ているが、年間で開催回数が限られる為、人口規模の大きい他の主要都市へのPR活動を実施し、更なる交流人口の増大に繋げることが課題となる。</p>	<p>・産業まつり:①より多くの祭参加者確保を図るため、より最適な開催地への変更または、臨時駐車場の設置の検討が必要。その他広報誌、チラシ、横断幕以外に県内ラジオ等での情報を発信し周知を図る必要がある。</p> <p>②外部機関とも連携し、村産野菜や果実についても来場者へ知ってもらう絶好の機会との認識を共有し、展示PRの強化を図るため展示会場への案内板や看板の設置箇所を増やす必要がある。</p> <p>・PRイベント:イベントの取組により、多くの方々へPRできたため、大宜味村を知ってもらい更に交流人口を獲得するため、今後も継続的にPRイベントを行っていく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

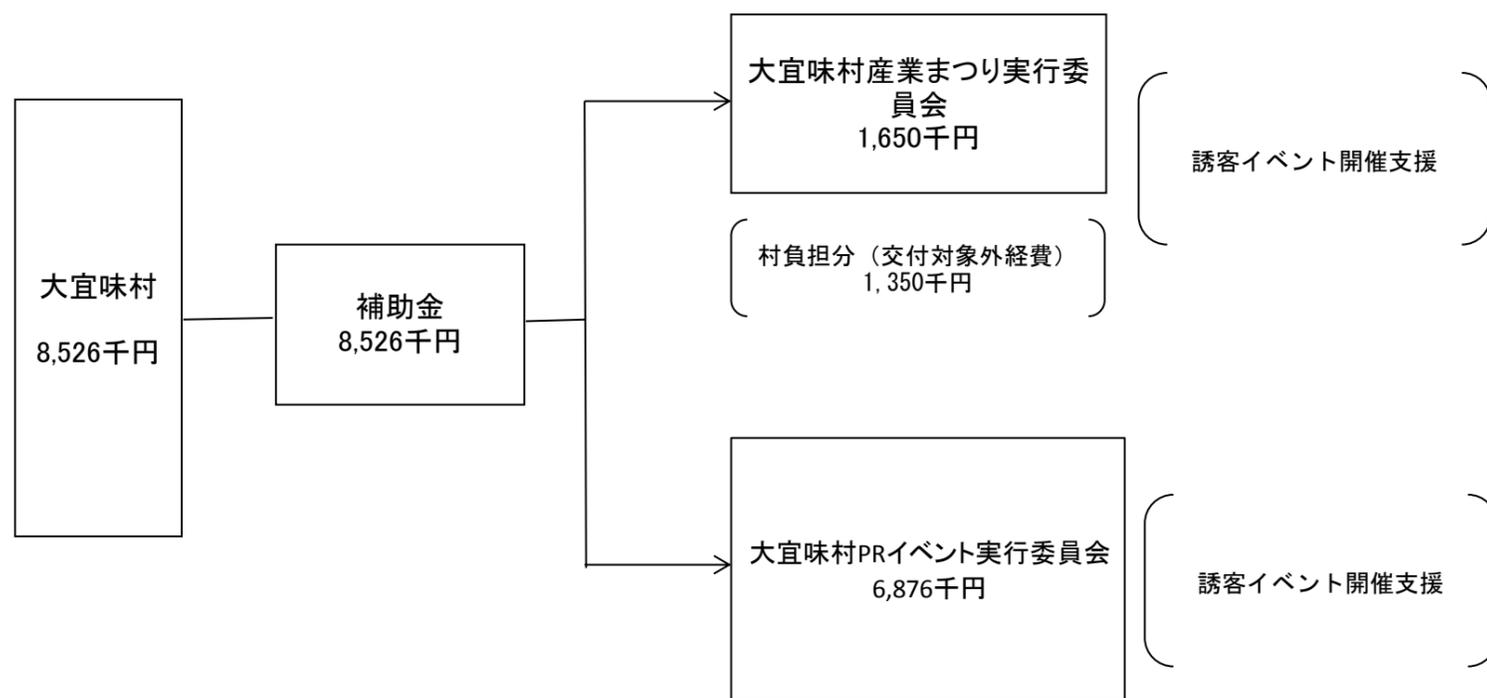
・産業まつり:①委員会等において最適な開催地または臨時駐車場の設置について検討を図り、より効果的なまつり運営を行う、また村出身アーティストであるアイモさんのラジオ内にて開催日時等の周知を依頼し祭参加者の向上を図る。その他シークワサー苗等をメインとした、果実セリ体験や野菜・花きの販売など大宜味村らしいイベントを企画する。

②外部機関とも連携し、村産野菜や果実・花きについても来場者へ知ってもらうため、展示会場(コーナー)にてPRの強化を促す。

・PRイベント:平成30年度は6回前後を目標に、県外及び県内にてPRイベントの開催またはイベントに参加することで大宜味村のPR活動に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,876	8,526	6,820	1,706	1,350



資金の流点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先は産業まつり実行委員会及びPRイベント実行委員会であり、妥当であった。</p> <p>○予算規模については適正な規模となっている。</p> <p>○費目・使途についても必要なものに限定されており適切なものとなっている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名: 1-③ 環境保全・美化推進事業
沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所: 第3章-1-(1)-(ア) 生物多様性の保全
担当部課名: 建設環境課
事業実施(予定)年度: 平成28~32年度
沖縄振興基本方針 該当箇所: III-1-(1)

事業内容: 地域住民や訪れる観光客の安全を確保するため、ハブの咬症対策や村内で捨てられた犬・猫の山林での野生化を未然に防ぎ野生生物の保護を図るため、環境保全の作業員によるハブ捕獲器、犬・猫保護器の設置・回収を行う。また飼い犬、飼い猫の適正飼育の周知等の強化を図る。

効果発現年度: 当年度 () 後年度() 年度

実施方法: 直接実施 () 委託 () 補助 () 負担 () その他 ()

Table with 7 columns: 28年度, 29年度, 30年度, 31年度, 32年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), 予算の状況 (a) 当初予算額, (b) 予算現額, (c) 増減額(b-a), (d) 繰越額, A. 計(b+d), B. 執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H29活動目標(指標), 28年度, 29年度, 30年度, 31年度. Rows include: 賃金作業職員の配置(3人), 各保護・捕獲器の設置 (ハブ:30台、犬:3台、猫:10台), 猫の避妊・去勢等の実施, 達成状況説明

Table with 7 columns: H29成果目標(指標), 基準値(年度), 28年度, 29年度, 30年度, 目標値(30年度). Rows include: ハブ咬症被害の未然の防止, 飼猫の適正飼育に伴う登録件数, 【H30成果目標】ヤンバルクイナの生息率 保護した猫の譲渡, 進捗状況説明

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・ハブ咬症被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へハブ捕獲器を設置し、今年度の目標2件以内は達成したがハブ咬症被害がまだある。また現在ハブ生息区域の拡大が確認されている。</p> <p>・飼猫の適正飼育に伴う登録件数については、広報誌や地域住民への周知活動を行い目標値を達成したが、飼猫を登録していない方々がまだおり、一部地域では飼猫の登録義務の認知不足があった。</p>	<p>・ハブ咬症被害の未然防止について、継続して観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ捕獲器設置、ハブ咬症被害があった個所の捕獲器設置検討を行い、咬症被害の被害件数を減らす。</p> <p>・飼猫の適正飼育に伴う登録件数について、継続して広報誌や地域住民への周知活動を行うが、地域住民に飼猫の適正飼育の周知活動を依頼する。</p>

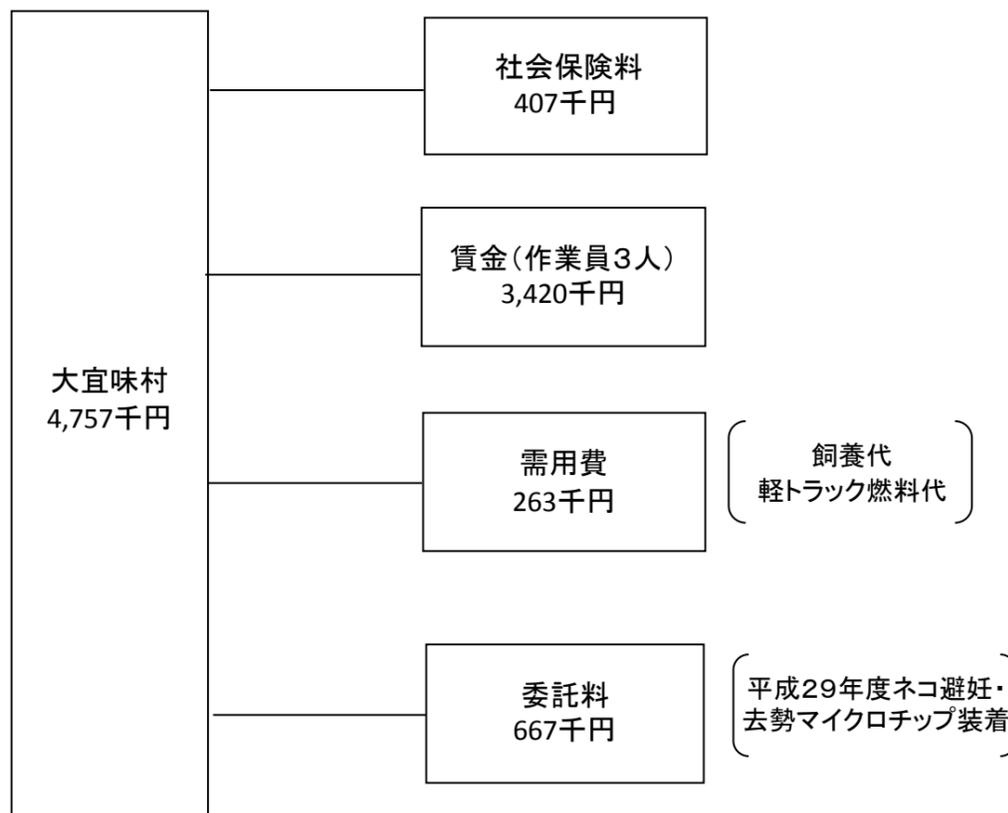
今後の取り組み方針

・ハブ咬症被害の未然防止について、観光地周辺へハブ咬症被害防止の周知を行う。新たにハブ捕獲器を購入し設置個所の拡大を行いハブ咬症被害数の減へ取り組む。

・飼猫の適正飼育に伴う登録件数について、各区に伺い飼猫の登録について周知活動を行う。地域住民でのボランティア活動により適正飼育の周知活動を依頼し、継続して活動できるよう体制を構築する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,757	4,757	3,805	952	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員の採用については、村の規則に準じ採用した ○予算規模については、15%不用額を出したが、賃金職員の退職による不足の事態による予算残、委託費の入札残による為であり、事業規模は適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・用途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア				
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)			
事業内容	将来の大宜味村を担う大宜味村の児童生徒の基礎学力の定着を図る為、村内の小学校1校と中学校1校に学習支援員を配置する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,976	10,976	10,911	8,818	11,108	
		(b) 予算現額	10,976	10,931	10,911	8,802	10,046	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲45	0	▲16	▲1,062	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	10,976	10,931	10,911	8,802	10,046	
	B. 執行済額		10,910	10,928	10,891	8,670	9,853	
	うち交付金充当額		8,728	8,742	8,713	6,936	7,882	
	次年度繰越額		-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		99.4%	100.0%	99.8%	98.5%	98.1%	
予算の状況の説明		年度当初、学習支援員の人員確保ができず不在の期間があり予算額の執行ができなかったため、1,062千円の予算減額をおこない、最終的に執行率において98.1%となっており、予算執行において適切だったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	小学校3名配置(低中高年各1名)	目標	(4小学校×1人)	(4小学校×1人)	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)		
		実績	4小学校×1人	4小学校×1人	1小学校×3人	1小学校×3人		
	中学校2名配置	目標	(1中学校×1人)	(1中学校×1人)	(1中学校×1人)	(1中学校×2人)		
		実績	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×1人	1中学校×2人		
達成状況説明	村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)	
	【29年度成果目標】 沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 0ポイント以上	目標	(-6ポイント)	(0ポイント以上)				()
		実績			-6.4ポイント			
	【29年度成果目標】 沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 中学校 -1.5ポイント以上	目標	(-18ポイント)	-1.5ポイント以上				()
		実績			0.1ポイント			
	進捗状況説明	今年度より成果目標の設定を沖縄県の到達度調査を用いて設定している。小学校においては県との比較ポイントを0ポイント以上としていたが、目標を達成できない状況であった。中学校においては目標を大きく上回る結果となった。小学校が目標を達成できなかった要因としては、今年度、県が指定する食生活に関する教育実践校の対象校となり、放課後にも研究活動が多く行われた。それにより例年行われていた補修活動が手薄になったことが挙げられる。						

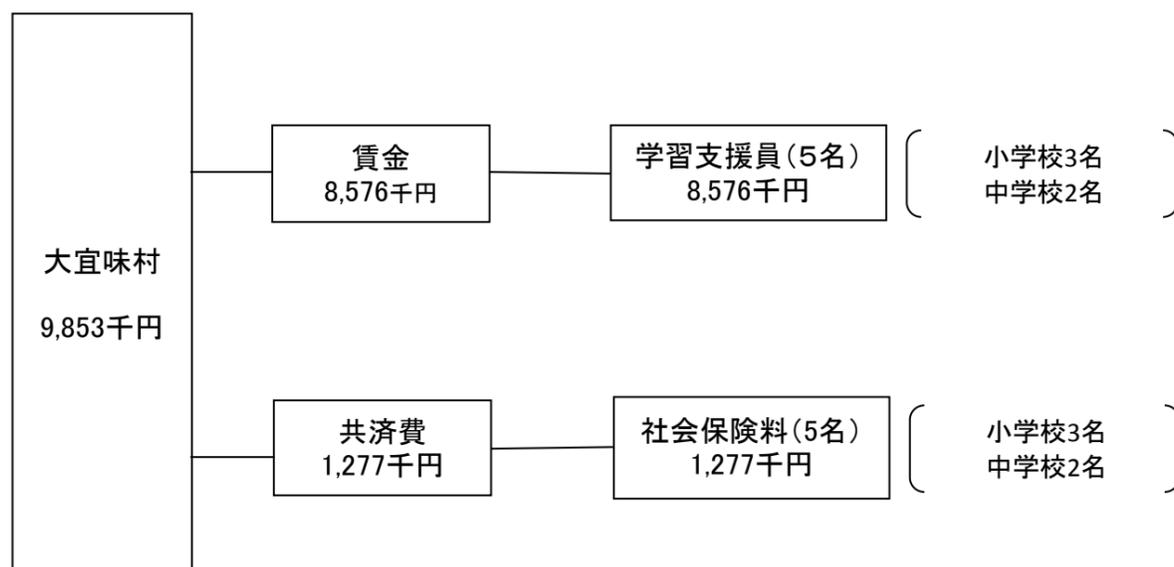
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては全教科平均点が沖縄県平均を-6.4ポイント下回っており、目標設定を変更後初の検証となったが改善が求められる結果となった。 ・中学校において、全教科平均点が全国平均を上回っており、今年度より1人増員した成果がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は沖縄県到達度調査において沖縄県平均を下回る結果となっているが、改善策として勉強に遅れがある児童に対し補習期間の拡大(夏休み期間や放課後)や各教室においての支援方法の改善(担任との教科毎の支援内容の再確認及び教科毎の授業に遅れがある生徒への支援強化)が必要となっている。 ・中学校は昨年より1人増員したことが大きな成果となった。引き続き支援員を2名配置し行き届いた環境の維持が求められる。

今後の取り組み方針

・小学校においては1校あたりの支援員配置人数が適正であると判断しているが、沖縄県平均を目指し今後の学習支援について取組の改善を図る。
 ・中学校は平成28年度の反省も踏まえ1人増員を行った。成果目標の達成状況から、支援員配置人数を増やすことで成果を上げることができたので今後も維持していきたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,853	9,853	7,882	1,971	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については不用額は193千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③ 「ぶながやの里」地域人材育成支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ 生涯学習社会の実現
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度 平成25~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-(1)

事業内容 各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。

効果発現年度 当年度 後年度()年度

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	2,285	2,285	2,517	2,306	2,477
		(b) 予算現額	2,285	2,285	2,517	2,261	2,477
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 45	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,285	2,285	2,517	2,261	2,477
	B. 執行済額		2,230	2,201	2,459	2,227	2,373
	うち交付金充当額		1,784	1,760	1,967	1,781	1,898
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		97.6%	96.3%	97.7%	98.5%	95.8%
	予算の状況の説明		104千円の不用額があるが、消耗品によるものであるため、予算は適切に執行されている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度
		生涯学習講座 12回開催	目標 (10回)	(10回)	(10回)	(12回)
	実績	10回	11回	12回	13回	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	生涯学習講座(青少年向け7回、成人者向け6回、計13回)開催し、講座受講者数合計391名。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(25年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		講座受講者数 120名	目標 (100名)	(120名)	(100名)	(120名)	()
			実績	351名	226名	391名	
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習講座(青少年向け7回、成人者向け6回、計13回)、講座受講者数合計391名。 ・前年度に比べ講座数が増え受講者数が増加した。 						

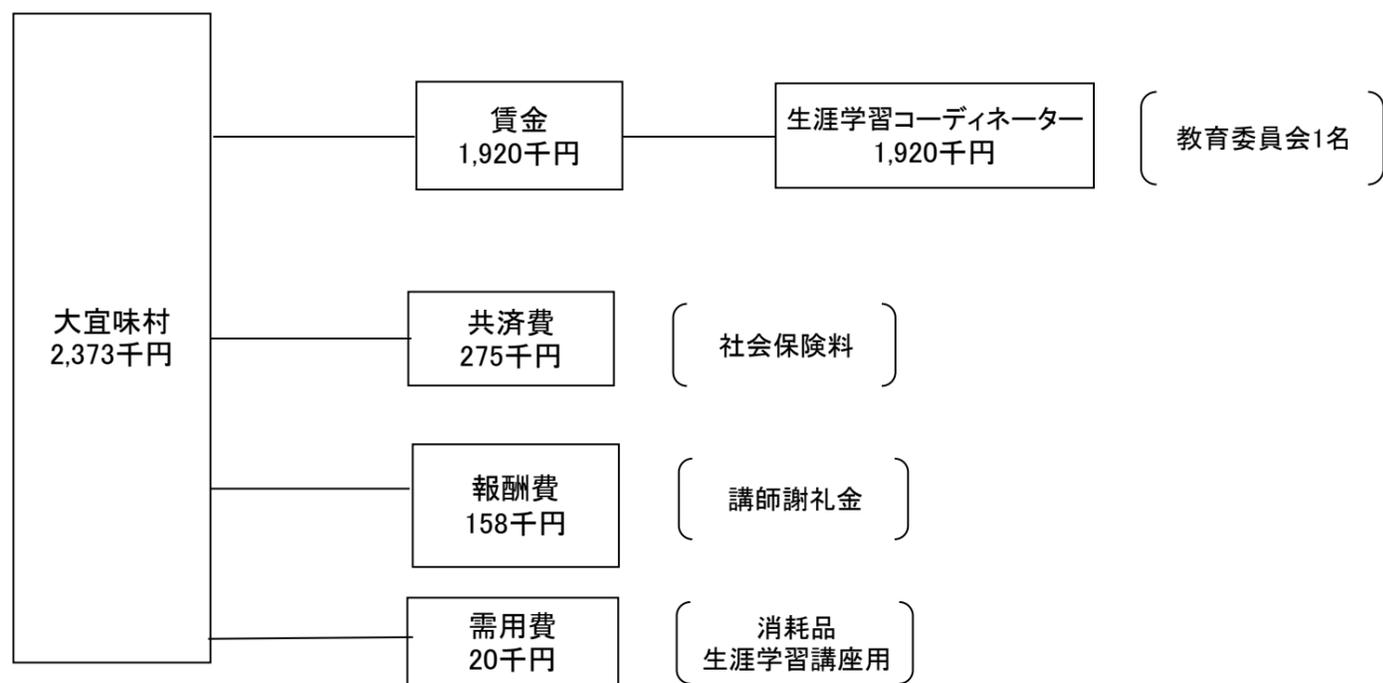
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>平成28年の村内4小学校統廃合によって村内1小学校になったことで、顔見知りの参加者が増えた安心感から参加者が増加していると推測される。その理由としては昨年度に比べ青少年の学校外活動において参加者が増えている。 しかし活動を行っていくうえで子ども達の活動を見守るスタッフが必要だが受講者の増加により職員だけでは対応が困難となってきている。</p>	<p>学校、保護者及び地域の方々などと連携しボランティアスタッフの確保を目指しつつ安定的かつ安全性の高い運営をおこなえる仕組みの構築が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・学校行事や村行事などをふまえ、日程を検討し講座を開催していく。
・学校や保護者をはじめ、地域の方々と連携した安定的なボランティアスタッフの確保を図れる運営形態の構築を行い、活動支援スタッフ人数に適した運営手法に改善しつつ取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,373	2,373	1,898	475	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○大宜味村生涯学習コーディネーター配置要綱に基づき採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模及び事業内容については適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	児童生徒等県外派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学校・中学校・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、予選及び審査等の結果、代表として参加する際の派遣費用を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	846	1,122	1,075	925	
		(b) 予算現額	846	722	500	540	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 400	▲ 575	▲ 385	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)		846	722	500	540	
	B. 執行済額		256	654	359	521	
	うち交付金充当額		204	523	287	416	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		30.3%	90.6%	71.8%	96.5%	
予算の状況の説明		当初予算での派遣見込額を下回った為、385千円の減額をおこなった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	児童生徒への県外派遣支援		目標 (35名)	(42名)	(派遣費の一部を補助)	(派遣費の一部を補助)	
		実績	13名	40名	22名	29名	
達成状況説明		第58回全九州高等学校レスリング競技大会(宮崎県)1名派遣 平成29年度全九州高等学校体育大会第70回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(長崎県)2名派遣 平成29年度全九州高等学校体育大会第70回全九州高等学校ソフトテニス競技大会(長崎県)1名派遣 平成29年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会(福島県)2名派遣 NPBガールズトーナメント2017(全日本女子学童軟式野球大会)(埼玉県)1人派遣 平成29年度九州地区中学校体育大会第48回九州中学校ソフトテニス競技大会(熊本県)2名派遣 第47回九州高校新人ソフトテニス競技大会第43回全日本高等学校選抜ソフトテニス競技大会九州地区予選会(熊本県)1名派遣 第47回九州高校新人ソフトテニス競技大会第43回全日本高等学校選抜ソフトテニス競技大会九州地区予選会(熊本県)1名派遣 第32回九州ジュニア選抜インドソフトテニス大会(熊本県)8名派遣 第24回ヨネックス杯九州中学校ソフトテニス研修大会(佐賀県)6名派遣 第29回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会第3回ミズノカップ全国ジュニア選抜ソフトテニス大会(三重県)4名派遣 当初の派遣見込額を下回ったが、対象となった児童生徒を派遣するという目的は達成できていると考えている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験をすることができたとの回答割合80%以上		目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績		100%		
進捗状況説明		平成29年度実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をすることができたか」の設問について、「大変できた」との回答が100%であり、目標を達成することができている。					

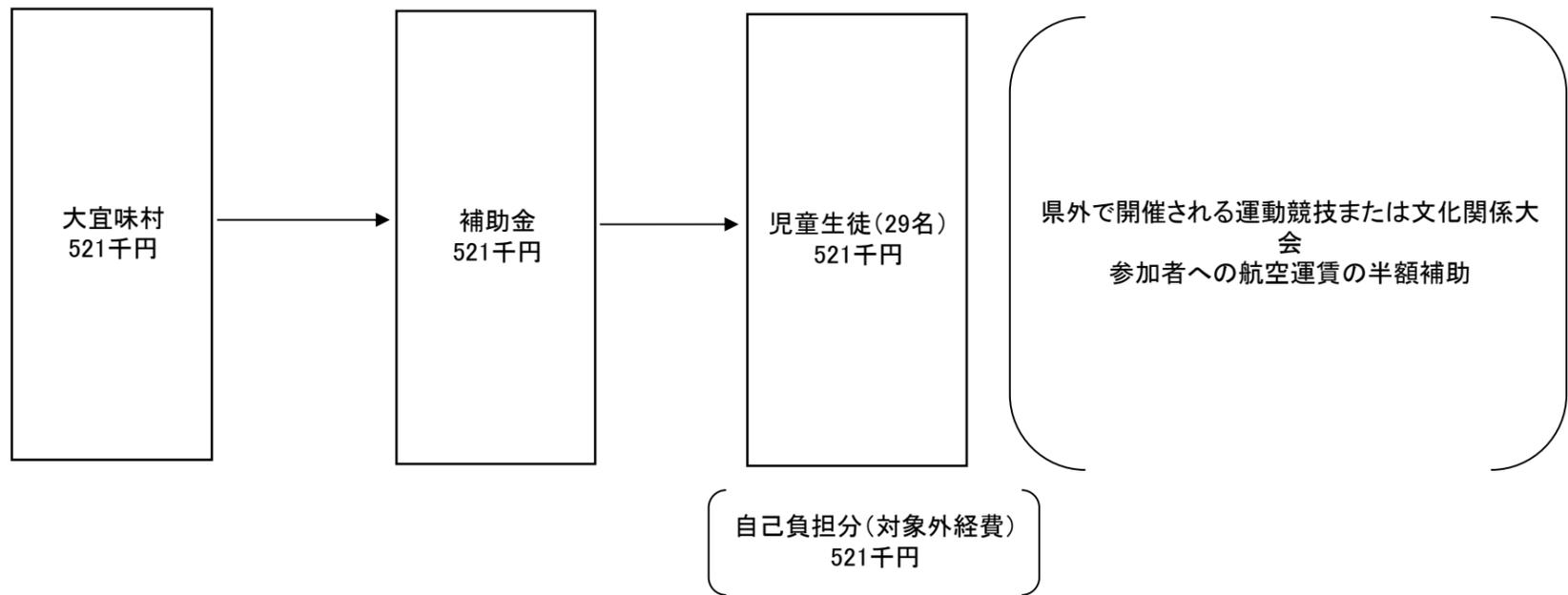
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	児童・生徒の活動報告では、「大会等派遣を通して感想(成果と課題)」の設問について、高校生は、「県内ではできない経験をする事ができた」との記載があるが、小中学生にとっては、設問が抽象的であったため、試合内容についての反省文となっており、意見を集約できていない現状である。	活動報告の設問として、「県内ではできない経験をする事ができたか」や、「それはどのような経験だったのか」等の具体的な設問を設けるように、活動報告の内容の見直しを行い、今後の事業展開へ活かしていけるような工夫をおこなうことが必要。

今後の取り組み方針

村内各学校と派遣に関する情報共有に努め、保護者や参加者である児童・生徒からの意見を取りまとめながら、H33年度まで支援を継続する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,042	521	416	105	521



資金の流 れ、費目・ 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、交付要綱に基づいた対象となっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合ったものと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は対象費用の5割で妥当としている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。

市町村名 大宜味村

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	防災監視カメラ整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと 防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成28~30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所
				Ⅲ-10-(2)

事業内容 防災・減災への取組として、有事の際の初期避難を迅速に行うため、村内河川の河口や、内海・外海を監視するための防災監視カメラの整備を行い、村のWEBにリンクさせることで、常に閲覧者がリアルタイムの情報を取得できるようにする。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	15,508	12,189		
		(b) 予算現額	14,640	11,529		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 868	▲ 660		
		(d) 繰越額	-	-		
		A. 計(b+d)	14,640	11,529		
	B. 執行済額		13,584	11,529		
	うち交付金充当額		10,867	9,223		
	次年度繰越額		-	-		
	執行率(%) (B/A)		92.8%	100.0%		
	予算の状況の説明		入札残がでたが変更申請にて減額行い100%の執行率となり、予算執行上において適切であった。			

活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
		防災監視カメラ整備工事の実施	目標 (実施)	(実施)	()
	実績	実施	実施		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	平成29年度事業分の3台の防災監視カメラの整備を行なった。役場にて遠隔操作及び監視モニタリングが行なえる状況。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)	
		防災監視カメラを活用した避難訓練の実施(1回/年)により当該事業のあり方を検証する。	()	(避難訓練1回/年)	()	()	()
		実績		避難訓練1回/年			
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	平成29年度沖縄県地震津波避難訓練にて使用し、目標を達成することが出来た。						

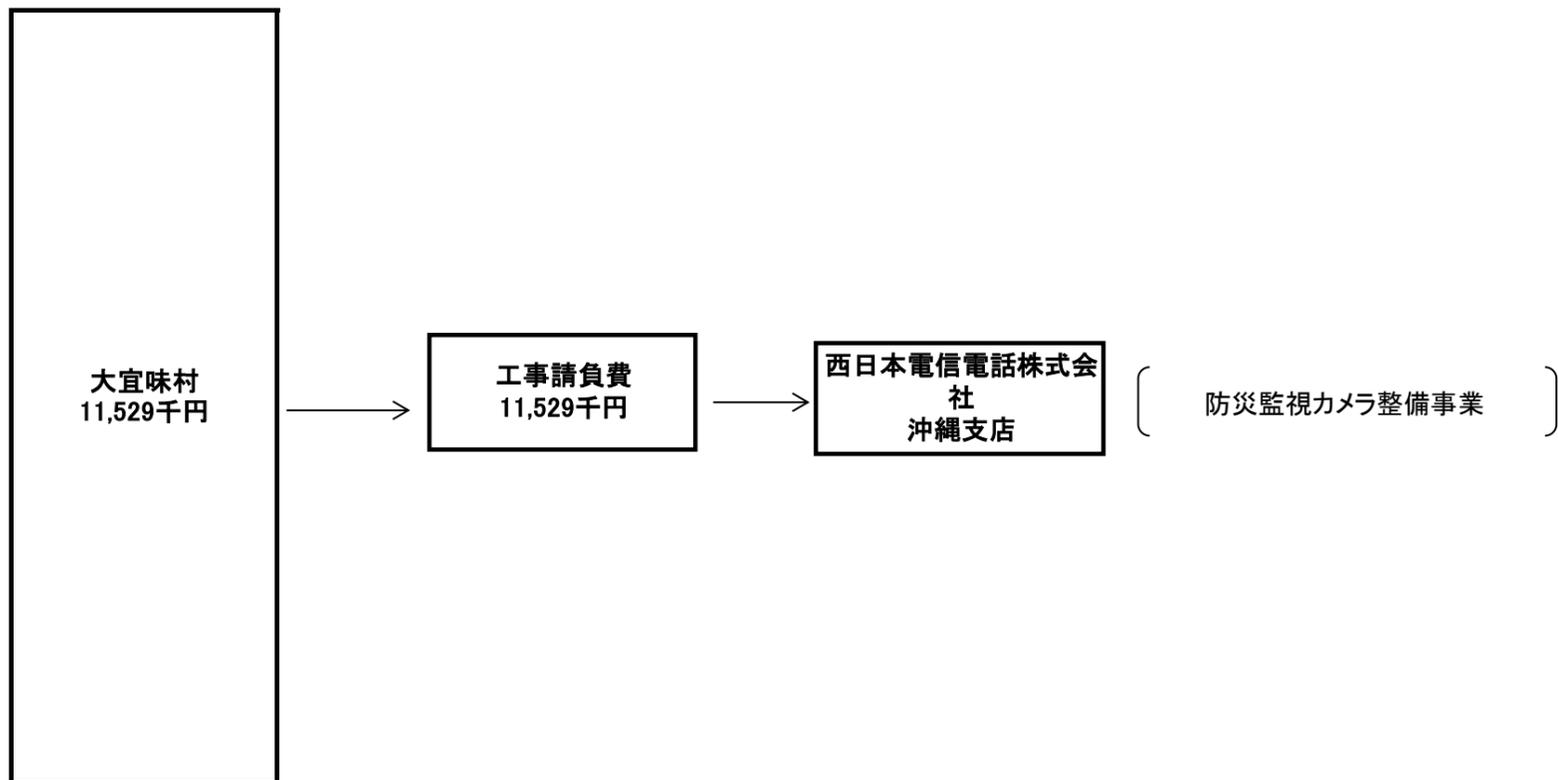
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	災害や避難者を遠隔にて撮影し映像を確認できるが、防災監視カメラから得た情報を速やかに住民に伝達することや、災害時でも速やかにどの職員でも操作等が行えることが課題。	防災監視カメラで捉えた映像を基に住民に速やかに情報伝達できるように防災監視モニターと防災行政無線を庁舎内の一部の箇所に集約し設置することが必要になる。また、定期的に職員等に操作研修等をおこない、迅速な対応を図れる体制を構築することが重要。

今後の取り組み方針

- ①防災カメラを活用した避難訓練と職員を対象にした操作研修会の実施。
- ②WEBを通して、内海・外海や河川の河口の状況をリアルタイムで取得することで、津波の際の初期避難が迅速に行える。
- ③防災・減災対策への意識の向上が図られる。
- ④通常時は、WEBで村の豊かな自然風景として、広く情報を提供することができる。
- ⑤防災監視モニターと防災行政無線の同一箇所に集約の検討。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,529	11,529	9,223	2,306	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事については、指名業者選定から指名競争入札を行っており、選定方法は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の達成のために必要なものであるということを額の確定時において支出時に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

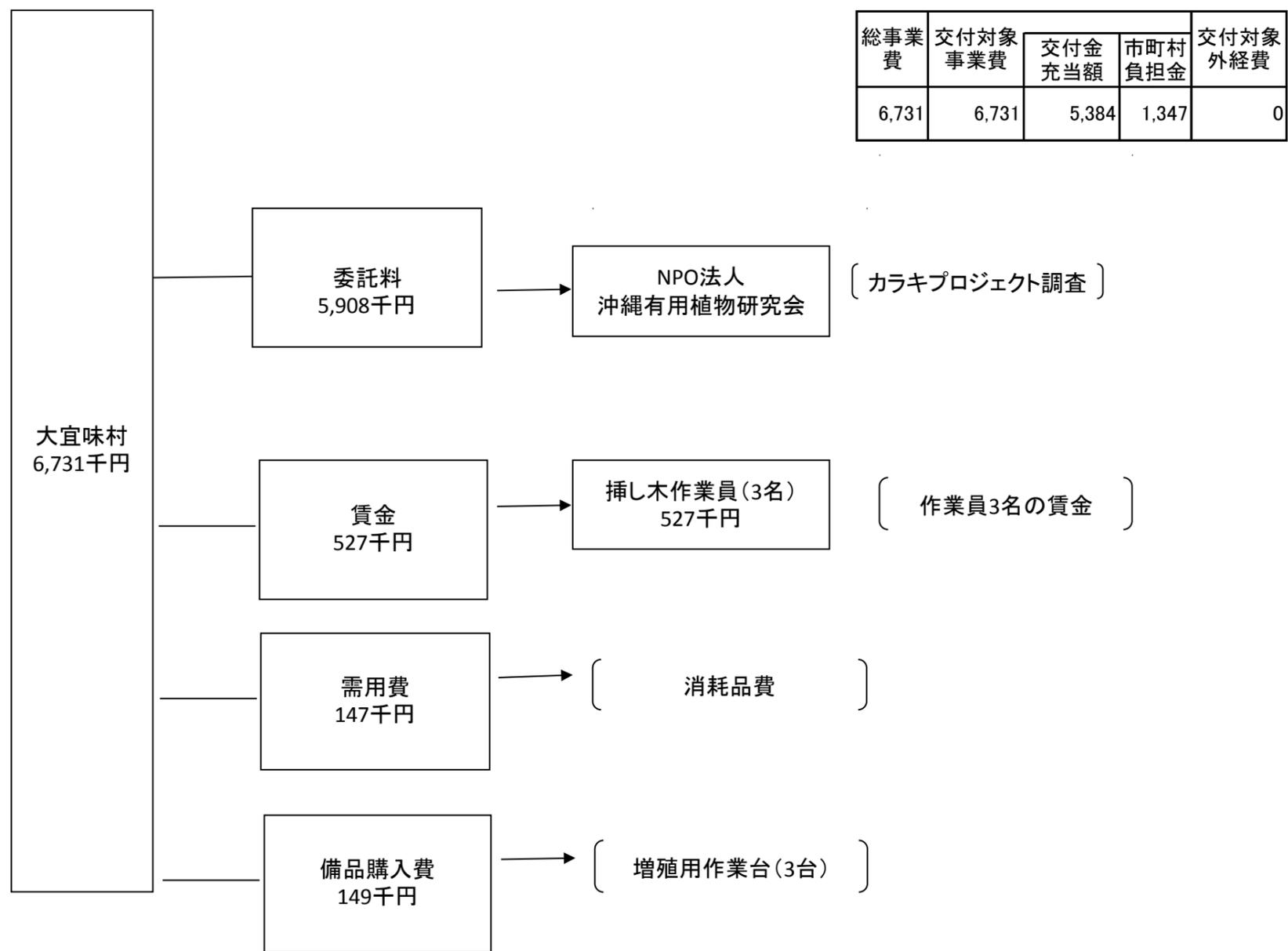
市町村名	大宜味村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	カラキ活用推進プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-(イ) 県産品の販路拡大と 地域ブランドの形成	
担当部課名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成28~31年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(4)	
事業内容	カラキ(オキナワニッケイ)をシナモンとしての価値に着眼し村内の地域資源として活用し、苗木生産から一次加工、商品開発・ブランド構築までを一貫して行い、地域内連携を推進しながら農林業の振興、観光の振興、人材育成等の地域振興を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(34年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,690	7,389			
		(b) 予算現額	13,525	6,871			
		(c) 増減額(b-a)	835	▲ 518			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	13,525	6,871			
	B. 執行済額		13,039	6,731			
	うち交付金充当額		10,431	5,384			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		96.4%	98.0%			
予算の状況の説明		執行残140千円については、作業日数の減、消耗品費の減による。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	加工法の開発	目標	()	(実施)	()	()	
		実績		実施			
	試作品の開発	目標	()	(実施)	()	()	
		実績		実施			
	挿し木6,000本の実施	目標	(4,000)	(6,000)	()	()	
実績		4,000	6,000				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥・粉末の実施体制(ソフト面:人的体制、ハード面:施設)を検討した。 一次加工商品の開発については、前提となる「食品の安全性確保」が重要で先に微生物試験を実施した。大腸菌検査で一部疑陽性があり条件等を変え5回検査を行ったが払拭することが出来なかった。 村産業まつりで試作品の試食とアンケートを実施した。 6000本の挿し木の完了 						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (34年度)
	加工法の開発完了	目標	()	()	(実施)	()	()
		実績			実施		
	試作品の開発完了	目標	()	()	(実施)	()	()
		実績			実施		
	挿し木6,000本の完了	目標	()	(完了)	(完了)	()	()
		実績		完了	完了		
【H34成果目標】 開発した商品を活用した村内店舗者数		目標	()	()	()	()	
		実績				11店舗以上	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 収穫から保存方法の把握、粉末のパッキング等の方向付けは出来た。 挿し木による増殖は、前年に挿し木した鉢上げ作業が少し遅れているが順調に生育している。今後も原料調達とバランスを取りながら優良樹の増殖を図る。 村産業まつりにおいて試作品の試食、アンケートを実施し200名より回答を得た。また、カラキ茶の試飲では900名以上にPRすることが出来た。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 加工品、試作品については葉の活用を第一としているが、余材である枝や幹の活用方法も検討する必要がある。 県内において乾燥・粉末を委託できる民間機関が極めて少ないことに加え、食品安全基準をクリア出来るかが今後の商品販売に向けた課題である。 産業まつりでのアンケート調査の結果、いずれの試作品も「好き」、「まあまあ」を加えると80%以上と好評であり、その中でもお茶は、「好き」80%弱、「まあまあ」を加えると95%と高い評価を得た。しかしカラキの認知度(カラキ=シナモン)が村内では高いが県内・県外では半数以上が知らない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトでは、葉の活用を第一としていることから枝や幹や余材の活用方法を模索し、すべて無駄なく利用していく総合的活用を目指す必要がある。 微生物試験等の結果から不安要因を解消するため方法を検討する。 認知度は年々上昇しているが今後とも村内外へのPRが必要である。

今後の取り組み方針

- 成分分析(乾燥葉・粉末・商品)
- 栽培・育成方法の検討(挿し木苗の定植方法、定植後の育成管理方法)
- 試作品開発(高校との連携)や商品開発については、カラキの特性(部位ごと)や村の特産品との組み合わせ等も必要である。
- 優良苗木の増殖技術の確立と成功率の向上

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者はプロポーザル方式により契約事業所を選定し随意契約を締結しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	